

豊橋市民病院だより

青竹

No. 100



豊橋市民病院だより青竹は、おかげさまで100号を迎えました。

- P 2 副院長あいさつ
- P 3 看護局から・新任医師紹介
- P 4 診療技術局から・医事課から
- P 5 薬局から

P 6・7 **特集** DMAT派遣報告

P 8 提案箱

2024.3.31

編集：広報紙編集委員会 委員長 村松幹司

豊橋市民病院

退任あいさつ

副院長兼看護局長兼入退院支援センター長 間瀬 有奈



令和6年3月末をもちまして役職定年を迎えることになりました。昭和60年に看護師となり、松葉町の豊橋市民病院に就職した生粋の豊橋市民病院育ちです。平成27年に認定看護管理者を取得し看護局長、令和3年に副院長を拝命しました。看護局長として7年間勤めてまいりましたが今思えば早かったように感じます。

看護師人生の中で管理者である前に一人の看護師として物事を考え、解決していくことのすばらしさや楽しさがよみがえってきます。電子カルテの立ち上げ、入退院センターの立ち上げに関わらせてもらい、介護福祉士の導入や看護外来開設を仲間とともに行いました。私の財産は仲間がいたことです。看護師はもとより、医師・事務職や多職種の方々が協力してくださったおかげと、地域の方々からの激励のお言葉や近隣の病院、施設の皆様にご協力いただいたことがあったから今の私があると思っております。

新型コロナウイルスという予期せぬ出来事がおこり、医療界全体が震撼した日々が続いた中で、看護師でなくてはならないか、看護の本質とは何ぞやと考えることが幾度とありました。自分を奮い立たせながら模索しながらなんとかやってくることができました。しかし、コロナ禍の4年間は医療にとっても、看護にとっても大きな痛手であったことは事実だと思います。世間では5類感染症になっていますが、まだまだ予断は許されておられません。

しかし、当院はこれから感染症病棟の完成に始まり、救急病棟、スーパーICUと様々変化し、地域のニーズに応えるべく高度化していきます。これからはその遅れを取り戻すべく看護の本質を極め、何より患者様により良い看護を提供するために、様々なことに変化できる体制づくりに取り掛かったところでもあります。4月から新たな看護局長の元で更なる飛躍をし、看護の質向上に向けてのご尽力をお願いします。

最後に、これから医療に携わろうとお考えになっている方々、そのような方がお近くにいる方へエールを送りたいと思います。豊橋市民病院はこれからも大きく発展していくのでその一端を担ってみませんか？充実感を得ることができると思います。輝け未来のエッセンシャルワーカー！



乳がんの自己検診

現在、女性が発症する「がん」の中で、最も多いのは乳がんです。乳がんの多くは、早期に発見することで治る時代になってきています。乳がんは身体の表面に近いところに発生するため、自分で発見できる可能性があります。以下を参考に、ご自身で定期的にチェックしてみましょう。

〈行うタイミング〉…月に1回

- ・月経がある場合：月経開始から1週間後程度で行う
- ・閉経している場合：月に1回 日にちを決めて行う



①みる

1. 鏡の前に立ちます
2. 頭の後ろで手を組みます
3. 乳房や乳頭の色や形を見ます
 - ・くぼみ・ふくらみ・ただれ・変色
 などを確認します



②さわる

1. 入浴時に行うことをおすすめします
2. 右乳房をさわる時は右腕を頭の後ろに挙げます
3. 腕を挙げてない手に石けんをつけます
4. 指の腹で軽く皮膚をおさえます
5. 円をかくように圧迫します
6. 肋骨にそって、乳房全体的に奥に触るように行います
7. わきの下も確認しましょう

※つまむように触ると、異常がなくてももしこりのように感じる場合があります



③しぼる

1. 乳頭の根元を軽くつまむ
2. 分泌物がでないか確認する
3. 下着の内側が汚れていないか確認する

ご自身でチェックしてみて、気になるところがあれば早めに医師に相談しましょう!

New Doctor

新任医師の紹介



耳鼻いんこう科 **村嶋 明大** (むらしま あきひろ)
前任地／名古屋市立大学
趣味／メダカの飼育

一般外科 **古山 剛広** (こやま たけひろ)
前任地／静岡済生会総合病院
趣味／筋トレ、サウナ

脳神経外科 **山本 俊** (やまもと しゅん)
前任地／名古屋大学医学部
附属病院
趣味／YouTube

一般外科 **加藤 暁俊** (かとう あきとし)
前任地／遠州病院
趣味／野球観戦

診療技術局から

PCR検査って？

コロナ禍でよくPCR検査という言葉を目にされたかと思います。実際に当院の検査室でもCovid19のPCR検査を数多く実施しました。少しPCR検査について説明したいと思います。

PCRはPolymerase Chain Reactionの略語でポリメラーゼ連鎖反応が和訳になり、遺伝子検査の手法に1つなります。ポリメラーゼとはDNAを合成する酵素の名称です。PCR遺伝子検査はある特定の遺伝子を増やし、検出する検査になります。

Covid19のPCR検査では患者様の検体と一緒にDNAポリメラーゼを専用の機器で反応させます。Covid19に感染している患者様だと検体中にウイルスの遺伝子が含まれています。その遺伝子をPCR検査で増やすことで、ウイルスを検出することができます。

PCR遺伝子検査はCovid19の検査だけではなく色々な遺伝子検査に利用されています。

例えば絶滅してしまった生き物のDNAを増やし、そこからクローンを作製するとか、ドラマでよくある遺留品から犯人を特定する遺伝子検査もPCR検査の応用になります。医療の現場でも先天性異常判断の出生前診断に使用し早期発見すること、がんの遺伝子を調べることで個別化医療や、予後の判定にも用いられ役立てられています。またCovid19のように病原体の検出にも利用されています。このようにPCR検査はいろいろな分野で活用される検査になっています。



医事課から

マイナ保険証をご利用ください

現在、マイナンバーカードと健康保険証の一体化が進められております。

当院では、患者様がより利用しやすい環境を整備するため、2024年3月に読み取り機（オンライン資格確認端末）を増設しました。

特に正面玄関入って左手（処方箋FAXコーナー付近）には、3台の読み取り機を設置しますので、是非、ご活用ください。

今回導入する読み取り機は、ハンディタイプのもになります。

車いすの方なども使いやすい仕様となっています。





点眼剤の取扱い



眼科領域における薬物療法の中心は点眼剤です。点眼剤にはそのまま使用するものだけでなく、使用時に溶解あるいは懸濁する必要があるものなど様々な種類があります。有効成分の分解を防ぎ、品質を保つため、各特性に応じた保管方法・取扱いが重要になります。

●温度

夏場の直射日光が当たる室内や車内など高温になる場所では保管しないようにしましょう。冷所での保管が必要な点眼剤もあります。その際は冷蔵庫の中でも冷凍室、チルド室、パースャル室、冷蔵室の吹き出し口の付近は避け、凍結させないようにしましょう。



●光

直射日光やUVランプを用いた殺菌灯のあたらない場所で保管しましょう。光に不安定な点眼剤には遮光袋が添付されているため、遮光袋を利用することも有用です。遮光袋は黒色や茶色だけでなく、無色透明の袋もあります。遮光性のない無色透明の袋と取違えることのないように注意しましょう。



●その他

- ・用時溶解型製剤(例. ベストロン® 点眼用0.5%など)

使用直前に2つの薬剤を混合し、溶解します。溶解前後で保管方法が異なるため注意しましょう。

- ・懸濁性製剤(例. フルオロメトロン点眼液など)

沈降した成分をしっかりと分散させるため、使用時によく振り混ぜましょう。長期間保管する際は、横に倒したり上下反転させず直立で保管しましょう。

点眼剤の容器先端部が手や目などに触れると点眼剤が汚染される可能性が高くなります。

点眼前には石けんを用いて手洗いをし、点眼時には容器先端部が手や目などに触れないようにしましょう。

点眼剤に記載されている使用期限は未開封の状態です。

医療用点眼剤は、特別に期限が設定されている場合以外は開封後1か月を目安に使用します。

保管方法・取扱いに不安や質問がありましたらお気軽に薬剤師にご相談ください。

特集

豊橋市民病院DMAT(災害派遣医療チーム)派遣活動報告

令和6年能登半島地震で犠牲となられた方々に謹んでおくやみを申し上げるとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

当院では、厚生労働省DMAT事務局より派遣要請を受け、3チームを被災地へ派遣しました。

第1次要請 1次隊報告 (活動期間 2024年1月2日から1月5日)

派遣職員5名：医師1名、看護師2名、薬剤師1名、放射線技師1名

〈活動状況〉

発災から72時間は超急性期といわれ、余震や二次災害の危険性がありながら、救命に主眼が置かれる非常に危険な時期です。DMATは自己完結型のチームであるため、日常生活と医療のできる装備を積んだDMAT車両と患者搬送用の車両2台体制で、1月2日、石川県七尾市公立能登総合病院へ出発しました。3日の朝、珠洲市総合病院への支援が決定しましたが、珠洲市へは道路状況が厳しく平時では2時間ほどの距離を7時間かけて移動しました。その間、町の雰囲気も暗く、倒壊した家屋も目立つようになってきました。



珠洲市総合病院では、発災後からの診療に数少ない職員が疲弊し、病院機能も限界直前でした。そのため、DMATで空路を用いた患者搬送と救急外来診療を支援することとなりました。自衛隊航空機を利用して透析や手術が必要な患者様を金沢市や富山市に搬送しましたが、情報が錯綜する中で自衛隊員や他DMATとの連携することの難しさを知りました。



救急外来診療では発災によるストレスで避難所から搬送されてくる患者様の対応が中心となりました。1月5日の朝、活動終了となりましたが、上下水道の復旧目処が立たず、衛生環境の悪化による感染症発症の危険性を残しながらの撤収でした。

第4次要請 2次隊報告 (活動期間 2024年1月8日から1月10日)

派遣職員5名：医師1名、看護師2名、放射線技師1名、理学療法士1名

〈活動状況〉

1月8日早朝4時に出発し、8時ごろ石川県立中央病院に到着しました。到着早々、任じられたのは、小松市民病院に移動しSCU(広域医療搬送拠点)を立ち上げる事。珠洲市や輪島市などから自衛隊航空機を利用した搬送を受け入れ、金沢市、小松市内及び近隣に搬送する役割を果たすことです。具体的には搬送されてくる方の情報をまとめ、搬送先の手配・調整、実際に搬送を行いました。また、石川県立中央病院では、病院支援として救急外来部門の活動をしました。病院のスタッフは通常の救急外来の対応をしているため、珠洲市や輪島市から陸路を中心に搬送されてくる方の一次的な医療対応及び金沢市内の病院に搬送する役割でした。津波や建物の下敷きになられた方の生々しい言葉を聞かせていただき支援活動に一層身が引き締まりました。



1月10日は医療搬送がいよいよ終わり、要介護者やその他の方を金沢市内の避難所に多くの方を一気に搬送する、そんな計画に対応するために、「搬送の流れをつくるミッション」を担いました。地域の大きな公園に自衛隊航空機が降り立ち、そこから避難所への搬送を確立します。到着後の搬送がスムーズに行えるよ

う、現地の下見や自衛隊、避難所スタッフとの調整、搬送経路を決定するなどを行い、夕方に活動を終了して撤収となりました。

第6次要請 3次隊報告（活動期間 2024年1月26日から1月28日）

派遣職員5名：医師1名、看護師2名、放射線技師1名、理学療法士1名

〈活動状況〉

輪島市立輪島病院で主に本部活動、診療、環境整備・生活支援を行いました。地震発生から1か月近く経過していましたが、多くの方が避難所生活を送っており、いまだ上下水道は復旧の目途が立っていない状況です。



本部活動では5～6隊のDMATや他の医療チームが支援に入っていたので円滑に活動できるための調整や病院の状況を評価し、輪島市の災害対策本部と共有しました。

救急外来での診療では避難所で体調を崩した方や救急車で搬送されてきた患者様を夜間も含めて診察を行いました。まだ市内のクリニックが開院できていないため受診できず内服薬がなくなり、体調を崩している方もいました。



環境整備では水の管理を中心に支援しました。トイレは、他市からの支援によるトイレカーが使用できていましたが、水道が使用できないため、手洗い用水の管理などを行いました。手洗い環境が不十分では感染面で大変危険となるため重要な支援でした。他にも現地の医療従事者の生活支援も行いました。現地の職員は医療従事者として地震のあとも病院で勤務していますが、被災者でもあります。来院される患者様に対する医療・看護の支援はもちろんですが、現地の職員を助けることも現地の医療を支えるうえで必要です。病院に届いた支援物資の整理や職員がシャワーを浴びることができるようシャワーのメンテナンス、生活用水をポリタンクに汲むなど医療以外の支援も行いました。

「医療チームのDMATがこんなこともするの？」と思われる方もいるかと思いますが、ボランティアも現地に入れない状況では職種関係なく、できることは何でも行う気持ちが大切でした。



★派遣活動を通じて★

今回の災害派遣を経験して、災害が発生する前に防災準備を進めておく大切さを改めて感じました。災害が発生すると想定以上に復旧に時間がかかり、すぐに物資が手元に届くとは限りません。まずは自分や家族の備えを行うことが大切です。また、地域で実際に避難所を立ち上げ、地域住民で実際に避難所体験をしてみることで、不足している物資の準備だけでなく事前に考えている計画の問題点などが見えてくると思います。なかでもトイレ問題はかなり重要です。トイレが使用できなければ避難者は水分・食事を控えてしまい、健康問題にも影響が出てきます。豊橋市では小中学校などでマンホールトイレが準備されていますが、立ち上げできなければ使用できません。避難所訓練等を通して使用方法を確認することも必要と感じました。

市民のみなさんが災害を他人事ではなく、自分事として考えて、備えることが必要です。



提案箱

提案を活用させて頂きました



提案書のまとめ

【所属：看護局】

提案月 2023年11月

救急の発熱患者を待たせるスペースで、パイプ椅子などやめてほしいです。

熱があつてつらいのに、椅子に座って何時間も待たされているので発熱患者のスペースもソファなど、横になれる椅子にしてほしいです。

対応
内容

救急外来でのお待ちいただく際の配慮が足らず、ご不快な思いをさせてしまい申し訳ありませんでした。救急外来の発熱ブースは、13席中6席をソファの設置としており、車いすやバギーなどで来院された場合には、椅子を動かして広い空間を使用できるようにしております。座っているのが辛く、横になりたい場合は受付窓口へお申し付けください。ソファ席へご案内させていただきます。

【所属：医療情報課・看護局】

提案月 2023年11月

Wi-Fiのパスワードを病棟の掲示板に掲示しておいてほしいです。掲示板にも入院のファイルにも記載がなかったので、1階の外来の掲示板まで見に行きました。私の見落としでしたらすみません。

対応
内容

院内公衆無線LANの接続に関し、ご迷惑をおかけし申し訳ございません。パスワード及び接続方法につきましては、各ベッドの床頭台に案内を設置しております。案内が見当たらない場合には、病院スタッフまでお声掛けください。

◆ 豊橋市民病院の理念 ◆

信頼に応える技術と、人に優しい思いやりのある心を持ち、
地域に開かれた安らぎのある病院を目指します

◆ 豊橋市民病院の基本方針 ◆

1. 地域に開かれた信頼のある病院、患者に優しい思いやりのある医療を目指します。
2. 地域の基幹病院としてふさわしい高度な医療を提供するとともに、特殊医療、救急医療等を積極的に受け持ちます。
3. 基幹病院としての役割を担いながら、他の医療機関との間の有機的な連携のもとに当院の行うべき医療活動を推進します。
4. 医学及び医療技術の研鑽に努めるとともに、医学・医療の進歩に寄与します。
5. 研修医、医学部学生、看護学生、コメディカル、救急救命士などの教育を積極的に行います。
6. 地域住民の保健知識の普及に努め、健康増進活動に参加します。
7. 公共性と経済性を考慮し、健全な病院経営に努めます。
8. 安全医療の推進に努めます。

当院のご案内は下記でも行っています。併せてご覧下さい。

豊橋市民病院インターネットホームページアドレス

<https://www.municipal-hospital.toyohashi.aichi.jp/>



豊橋市民病院
携帯
サイト

